

働く男のライフスタイル情報紙

# Biz Life Style [ ビズスタ東京 ]

# 2018 12

特別版

『Biz Life Style』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島、岡山にて68万部発行  
下記URLまでアクセスを。

[www.biz-s.jp](http://www.biz-s.jp)

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは  
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005  
企画・制作 / 株式会社デイリースポーツ案内広告社  
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F  
© 2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



## 愉楽の箱根。

東京からクルマでわずか約1時間20分。近場気分が気軽に週末を過ごすに絶好のアクセスを誇る「箱根」には、いまこの誌面をご覧の方の多くが一度は訪れたことがあるはずだ。朝、目覚めて「今日はとても天気がいいので、ドライブがてら温泉にでも」と思わせてくれる、東京都民の身近な観光地。その魅力は改めて説明するまでもないだろう。「一文で済ませそうになるが、実はそうとも言えなかつたりする。

年間2000万人を集める首都圏至近の一大観光地は、どうやって誕生したのか

箱根は、想像以上に見どころや楽しみ方の幅が広い。裏を返せば、私たちの大半が「実は箱根をよく知らない」とを意味している。

町の発表によれば、昨年1年間では実に約2152万人もの観光客が訪れたという。大観光地箱根は、東京近郊としてまさに「自然の宝庫」だ。四季を通じて人々を魅了する要素に溢れ、いつ訪れても言葉が足りず見惚れるような景観で目を楽しませてくれる。

その自然美の生みの親とも言える存在が、箱根山だ。古くから「天下の険」として人々に畏怖の念を抱かせた箱根山は、実は首都圏から最も近い活火山でもある。最近では研究が進み、複数の火山が集まって形成された火山帯の一部という説が有力となっているそう。約40万年〜23万年前から噴火を繰り返してきたが、現在の芦ノ湖や仙石原、大涌谷を形成したのは約3000年前の噴火と考えられている。

火山の噴火は、人々の日常生活を一気に破壊する自然災害だが、その一方で、人の心を癒す美しい環境を造り上げた母でもある。「ご存じの通り、火山大国と温泉大国という言葉はほぼ同義として用いられているが、現在では「箱根」は「湯」と讀まれるほど多種多様な湯煙情緒も、そこに人が集まることで生まれた史跡の充実度も、もとを辿れば火山活動の恩恵とも言えるのだ。

そこで今回は、ほぼ全域が国立公園であり、関所などの見どころにも恵まれた箱根の魅力、駆け足で眺めてみたい。次ページからは、箱根の魅力について、もう少し詳しくご紹介しよう。

意外に知らない箱根の素顔とは… 今日にでも行ける温泉地の魅力を駆け足で紹介!



My Favorite Life Style



# 全国の箱根ファンの想いが、「噴火」前を超える賑わいを形成中。

東京のお隣の神奈川県西部に位置し、クルマだけでなく電車でも出てくれば、クセの良い温泉地、箱根。箱根の玄関口である「箱根湯本」、外国人向けリゾートとして早くから開けた「宮ノ下」、個性派美術館が集まる高原リゾート地「仙石原」、富士山を望む風光明媚な「芦ノ湖」、古くから別荘地として開発されてきた「強羅」など、様々な魅力を持つエリアが点在しており、いずれも美しい四季の風景が全国各地から押し寄せる観光客を魅了している。

## なぜ箱根の自然はこれほどまでに美しいのか

かつて文豪たちが拠点を構えて長逗留と洒落込んだ...というエピソードをよく耳にする。彼らの創作心を刺激したであろう景観の美しさには、実は理由がある。表紙でも触れたが、火山活動で形成された箱根帯はいわゆるカルデラ地形。標高差が激しいため、近い場所でも気温がかなり違うのだ。たがって、たとえば春の桜は、標高の低い場所と高い場所で開催時期に時間差が生じる。4月初旬は湯本付近で咲き、ゴールデンウィーク前後には芦ノ湖で満開に...という具合だ。これは、いまの時期の紅葉にも当てはまる。桜とは逆に高い場所から順に秋めいていくので、地域ごとに個性を持つ美を長く楽しむことができるわけだ。

## 火山の噴火にも負けず箱根に集まる観光客たち

さて、火山活動で生まれた箱根は発展を続け、多い年では2000万人を軽く超える観光客が訪れる箱根。昨年は前年比で10%ほど増加したそうだが、その背景には2015年、大涌谷エリアでの噴火がある。当時の報道ラッシュは記憶にも新しいが、実はごく小規模な噴火だったことをご存じだろうか。大涌谷周辺のみと影響も限定的だったのだが、町全体が大噴火に呑まれたような印象が形成されてしまい、年間観光客数も2割ほど減少。2000万人を大きく割り込んだという。人々がいかにも噴火を危惧したかが伝わってくるが、このエピソードには続きがある。それが表紙で紹介した約2015.2万人という2017年の観光客数なのだが、実はこれ、何と噴火が起きる前の年の実績を超えてしまったというのだ。

## 火山の噴火に負けず「箱根に行きたい」人々

「オール箱根」して民と官とが一体となった正確な情報発信活動も功を奏したのだが、それとともに効果的だったのが、たまたま箱根町として同時期にリニューアルしていた「ふるさと納税」だ。もともと観光地としての魅力は、ふるさと納税に磨きがかかる。ふるさと納税の目的は、蓋を開けてみると、町が驚くほどの寄附が

士の美景を満喫できる上に、条件が整えば「逆さ富士」も鑑賞可能。これほどまでにパリエーションが豊かな自然美を味わえるのは、東京近郊では珍しいかもしれない。

## 火山と自然から始まる観光地の「進化」物語

箱根の自然美の最たるものが、代名詞である温泉だ。規模も泉質もさまざまな源泉がひしめく日本有数の温泉街は、湯治文化の聖地とも言える存在。出かける際は、立地のほか「疲労回復」から「美肌」まで湯の種類で宿を選ぶのもアリだ。湯煙に人が集まれば、もてなしの文化が発展する。美術館や博物館の多さは昔から有名だが、加えて移動のための乗り物も箱根旅行のポイントのひとつとなっている。全国的な知名度を誇る登山電車を筆頭に、その標高差を体感できるケーブルカーやロープウェイなどをのんびりと乗り継ぎながら、自然と温泉、ミッドジウムを巡る休口。これだけでも魅力的だが、さらにもうひとつ、箱根ならではの要素がある。観光客が増える近年の箱根はグルメ観光地としての性格を強めているのだ。

## 集まる。

寄附の部には、町に対する応援メッセージが添付されている。ここではその例を紹介しよう。

二時、火山の影響で観光客が減り、大変なところだと思います。ニュースにて現地の方のインタビューを拝見し、事の重大さがひしひしと伝わってきました。自然には敵いませんが、何とか頑張ってください。

「箱根山の噴火が気になるので、安全情報を適切に流して、風聞に影響されない観光地としていきたい。応援しています」

「子供の頃から毎年箱根でお正月を過ごし、今も時間があれば温泉に行っています。家族三代の思い出の詰まった大切な場所です。応援しています」

「一番身近な観光地で2〜3か月毎に行きます。温泉、ゴルフ、食べ物なんでもあり、行く度に発見があります。駐車場行き先表示などの充実をお願いします」

人々の想いに応えるために、箱根町のふるさと納税では、実際の箱根を現地視察する「ふるさと納税」にした返礼品が多い。その代表例が「箱ひた ふるさと宿泊補助券」だ。これは現地100軒の宿泊施設で使える共通宿泊補助券。2017年10月現在、まさにここで紹介した箱根ファンの声をタレントに受け止める形の返礼品となっており、最短なら何と寄附をしてから1週間以内で使うことができる。ふるさと納税の魅力を再確認しよう。

「現地体験型返礼品を中心としたふるさと納税」の魅力を再確認しよう。



本紙おすすめ! 箱根町 ふるさと納税 返礼品  
**箱ひた ふるさと宿泊補助券**  
2万円分の宿泊券として利用可能。  
寄附金額 70,000円から 交換ポイント 2670ポイント  
事業者/箱根温泉旅館ホテル協同組合 TEL.0460-85-5571





My Favorite Life Style



海賊船 芦ノ湖クルーズ&日帰り温泉入浴

①「湯房 MAYUの森」ペアチケット

船上の絶景と新温泉施設体験、大人2名様。

寄附金額 20,000円から 交換ポイント 800ポイント

事業者/箱根観光船株式会社 TEL.0460-83-6325



行って、体験したくなる。箱根町のふるさと納税。

箱根町のふるさと納税は現地体感型の返礼品が充実

前ページでも少し紹介したが、箱根町の「ふるさと納税」の返礼品は、実際に現地に出かけたくなるようなアイテムが多数ラインナップされている。ここでは、代表的なものをご紹介します。

まずは、「海賊船」による芦ノ湖クルーズ&日帰り温泉入浴「湯房MAYUの森」ペアチケット(①)だ。その名の通り、同地の代表的な観光名所である芦ノ湖を立派なクルーズ船で巡るミニ旅行プランで、さらに日帰り温泉体験付き。思い立った時に気軽に味わえるよう箱根の魅力が凝縮された返礼品として、夫婦やカップルたちに大人気なのだそうだ。大人の休日を通すのであれば、ゴルフの全日ラウンドセルフレイ券(②)がおすすだ。都心のゴルフ愛好家なら百も承知かと思うが、箱



②町内各ゴルフ場プレー券

1組4名様プレー招待券(利用税・昼食代は除く)。

寄附金額 100,000円から 交換ポイント 3900ポイント

一対象ゴルフ場一

小田原湯本カントリークラブ/箱根園ゴルフ場/箱根くらかげゴルフ場/大箱根カントリークラブ/箱根カントリー倶楽部/箱根湖畔ゴルフコース/箱根湯の花ゴルフ場/富士屋ホテル仙石ゴルフコース

※降雪や天候によりクローズとなる場合があります。



③りんごφ55

無垢の寄木で作られたりんごの形をした小物入れ。

寄附金額 20,000円から 交換ポイント 720ポイント

事業者/株式会社金指ウッドクラフト TEL.0460-85-8477

根は8か所ものコースが集まる「ゴルフ場の名所」でもある。美しい景色を見ながらのラウンドは格別だが、プレー後は天然温泉が待っている点もポイントだ。

さて、ふるさと納税での返礼品選びなら、りんごの小物入れ(③)はいかがだろうか。前述のトロフィーを手がける職人本人の手造りなので、まさに「本物の味わい」が楽しめる。なお、箱根寄木細工の現物は現地ではさまざまな場所で見かけるので、湯治の際はぜひ宿やレストラン、お土産品店などでその世界観を確かめてみて欲しい。

もうひとつ、箱根町を語る上で欠かせないのが、江戸時代末期から続く「箱根寄木細工」だ。さまざまな種類の木材を組み合わせて、色合い風合いの違いを利用して模様を織り成す木工技術で、昭和59年に国の伝統的工芸品として認定を受けている。近年は、訪日客の激増に伴って海外でも人気が高まっているとか。ちなみに、こちらも町の代名詞となっている「箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)」では、往路優勝校へ贈呈されるトロフィーが寄木で造られていることも覚えておこう。

箱根町のふるさと納税では、返礼品と交換できるポイントを付与される仕組みなので、後でじっくり選ぶことも可能だ。1万円⇔400ポイントで、「箱ひた」ならば、2670ポイントを貯めれば交換できる。有効期限が2年間もある。翌年のGWや紅葉の時期になど、行きたい季節に合わせて使うこともできる。そのほか、詳細は下記にて表紙で紹介した通り「知らない箱根」に多数出会うことになるだろう。

<https://hakonefurusato.jp>

HAKONE 箱根ふるさと納税

箱根町 ふるさと納税 検索



【問合せ先】 箱根町総務部財務課 神奈川県足柄下郡箱根町湯本256 TEL.0460-85-9563

※掲載している返礼品は掲載時点の内容です。変更となる場合があります。予めご了承ください。  
 ※発送が混み合う時期は、お届けが多少遅れる場合があります。予めご了承ください。  
 ※写真はすべてイメージです。季節・天候により異なります。  
 ※商品はなくなり次第終了とさせていただきます。  
 ※有効期限など商品詳細に関しては、「箱根ふるさと納税」公式サイトをご覧ください。